

2023年9月25日

豊岡市長 関 貫 久 仁 郎 様

豊岡市歩いて暮らすまちづくり審議会
会 長 佐 藤 真 治

歩いて暮らすまちづくり構想の推進について（答申）

2023年8月28日豊岡市歩いて暮らすまちづくり審議会において諮問のありましたみだしのことについて、本審議会において慎重に審議した結果、次のとおり答申します。

記

1 諮問事項

2021年度及び2022年度における歩いて暮らすまちづくり施策の評価と今後の施策の方向性について

2 答申

本審議会は、豊岡市歩いて暮らすまちづくり条例（平成24年条例第15号）に基づき、豊岡市歩いて暮らすまちづくり構想の施策の評価について諮問を受けた。

これらの施策について市民・協働者の視点及び学術的な見地から評価を行い、構想が目指す姿の実現を図る観点から審議し、次のとおり答申する。

(1) 2021年度及び2022年度における歩いて暮らすまちづくり施策の評価について

2021 - 2022年度の施策について、豊岡市まちづくりアンケート～政策モニタリング調査～の結果報告書などを基に、「コロナ禍を経て戻ったもの（個人の歩数など）と、戻りの遅いもの（主観的健康観＝自身を健康だと感じるかどうかの質問に対する回答、玄さん元気教室への参加者数・ウェルストーク豊岡の利用者数など）」について、以下の意見が出されたので、今後の施策に反映されたい。

- ① 主観的健康観が戻り切らない背景には、コロナ禍によるコミュニケーション不足と、それによる心の元気（メンタル）の回復が遅いことがあると考えられる。
- ② 条例、実施されている事業などが市民に知られていない現状がある。
- ③ 正しい歩き方について、歩きすぎによる弊害、効果のある歩き方、血圧値や血糖値に考慮した歩行方法の周知を行う必要がある。
- ④ 玄さん元気教室について、今後も継続していくために、多世代の人が参加者として関わる必要がある。

(2) 今後の施策の方向性について

ア 運動健康ポイント制度アプリ「とよおか歩子」の弾力的な運用の検討

2 - (1)を受けて、心の元気（メンタル）の回復を図るためには、仲間との健康づくりの場に参加されていない人を交流の場につなげることが有効だと思われる。

具体的には、運動健康ポイント制度を現行の歩数だけでなく、サロン等の交流の場への参加についてもポイントが付与される仕組みづくりを検討されたい。

イ 市民の隅々にまで健康づくりの情報が届く方法

歩いて暮らすまちづくり条例に関する情報が、市民の隅々にまで届いていない現状がある。

市の担当者が各地区に出向き、直接市民に、歩いて暮らすまちづくり条例に関する事業[運動健康ポイント制度、玄さん元気教室、正しい歩き方講座、ワークショップ（お散歩マップづくり）など]について周知・PRすることを検討されたい。

ウ 玄さん元気教室の次世代への継承について

開始後 10 年を経過した玄さん元気教室であるが、参加者やスタッフの高齢化・マンネリ化の現状があるため、多世代の交流を盛り込んだ、次世代への継承のあり方について検討されたい。

具体的には、高齢者だけでなく、青壮年層や主婦層、高校生などの若年層も筋力トレーニングに取り組むことで、老年期に入る前からの運動習慣の定着が期待できるため、あらゆる世代が参加できるような事業のあり方について検討されたい。